芸西地区から こんにちは 今月の気になる人

東川事業所管内より

散歩コースはユズ畑

マリちゃん（9） 飼い主：大城 敏子さん

1才の時、「安芸ゴルフセンター」さんからやってきたマリちゃん。主に高知県原産の四国犬との雑種犬です。四国犬は実猟に使われることもあったようで、マリちゃんも知らない人が来る時は吠え、しっかりと番犬をしてくれます。でも、普段は大人しくて、とってもいい子です。

雷が苦手という、かわいい一面も。雷の日は軒下へ避難しています。

今日も、敏子さんの運動も兼ねて、一緒にユズ畑周辺をお散歩しています♪

ケンカしてもすぐに仲直り♡

（右） 黒岩 咲良（さら）ちゃん（5）
（左） 結菜（ゆな）ちゃん（2）

自転車や三輪車に乗るのが大好きな、咲良ちゃんと結菜ちゃん。昨年完成した新しいお家の庭でいつも仲良く遊んでいます。ケンカも多いけど、最後はいつもニコニコで仲直りします。

おじいちゃんとおばあちゃんは、室戸市羽根町でナスを栽培しています。ナスが苦手な咲良ちゃんも、保育園の給食ではきちんと食べています。さすが、お姉ちゃん！

結菜ちゃんは好奇心が旺盛で、いつも「これ何？」と聞いてくるそうです。初対面の人には人見知りするけど、取材日も最後は「バイバ～イ」とにっこり笑顔を見せてくれました☆

羽根事業所管内より

穴内出張所管内より

サツキの鉢植え、圧巻の2000鉢！

山中 荘立さん（70）

ずらりと並ぶサツキの鉢植え、その数なんと2000鉢以上！ 主に弟・正丈さんが育て、荘立さんは針金をかける整姿や剪定をします。若い頃から、植物の挿し木や山へ採集に行くことが好きで、50年来の趣味です。「育てて増やすのが楽しい。針金をかけて、美しい形になったら嬉しい」と目を輝かせます。理想的な形をイメージしながら、針金をかけていくそうです。

サツキのほか、梅、藤、楓などたくさんの植物を育てています。梅は苗を買ってきて、接ぎ木を繰り返し、今では約60鉢まで増えました。毎年6月、愛好家たちが集まる牧野植物園でのサツキ展も楽しみにしています。

荘立さんの鉢は穴内出張所の窓口に飾っているので、来店の際は癒されてくださいね。

継続して、プロスケーター活動も

春田 真佑さん（33）

芸西村で父・浩吉さんと母・裕子さんと、ナス33アールを栽培する真佑さん。18歳から大阪でアパレル業などで働きながら、プロスケーターとして活動していました。3年程前、両親が体調を崩し「自分のことばかり優先できん」とUターンを決意。実家へ戻ることが決まってから、夢だったウィール（タイヤ）のプロモデルをリリース。思いと実績がカタチになった瞬間でした。

昨年12月から農業担い手育成センターへ通い、今作初めて最初から栽培に挑戦します。「周りに同世代の農家が多く心強い。早く一人前になりたい」と真佑さん。時間を作りやすい農業のメリットも活かして、スケーターとしての活動も継続。「高知の環境、高知のスポットで、全国へ発信したい」とこの場所での生き方を模索しています。

芸西支所管内より

安芸地区版

Monthly Topics

できごとピックアップ

地区内のイベントや、地域農家の取り組みなどを紹介します！

ユズ栽培について意見を交わす中田氏㊨と田所部長㊥と上村村長

1 北川支所

中田英寿さん北川村視察「キットカット」原料の生産現場へ

ネスレ日本㈱は9月5日、安芸地区柚子部のユズ果汁と田野町の酒蔵「濵川商店」の日本酒で仕上げた「キットカット ミニ 柚子酒 美丈夫」を発売。全国約400蔵の酒蔵を回るなど、日本酒の魅力を知り尽くした元サッカー日本代表の中田英寿さんプロデュースのもと開発されました。

中田さんは7月18日、柚子部北川支部の田所正弥部長のほ場を視察。田所部長や上村誠村長から栽培の歴史や規模、現状の課題や解決策などを熱心に聞き取りました。田所部長は「村やユズのPRになれば嬉しい」と歓迎しました。

北川ユズ加工場では、牛窓伸一場長から青玉と黄玉果汁の味や用途の違いなどを聞き取り、ユズ果汁の試飲で素材を確かめました。

中田さんは「ユズ生産の現状を知り、柚子酒でいろんなことができると可能性を感じた。今回の取り組みで、生産者の意識変化や夢を与えられたら嬉しい」と意欲を見せました。

「ナスの豚肉巻き」を調理する参加者

2 地区本部

安芸のナスを好きになって「こうち体感ツアー」へ協力

安芸市施設園芸品消費拡大委員会は6月29日、高知新聞社が主催する高知家未来プロジェクト「こうち体感ツアー」へ協力しました。一般応募で集まった親子10組22人が参加し、ナスの収穫体験と出前授業、調理体験をしました。

参加者は、ナス農家の植野進さんのハウスで収穫を体験。植野さんから「つやのあるナスを選んでください」と教わると、袋いっぱいに収穫を楽しみました。

出前授業は、植野さんが先生を務め、安芸地区が取り組む環境にやさしいエコシステム栽培などについて学びました。参加者は「もっと農薬を使っていると思っていたので、驚いた」と感心していました。

調理体験は、メンバーに教わりながら「なすのたたき」「ナスの豚肉巻き」などを作りました。参加した子どもは「ナスは苦手だったけど、こんなにおいしいとは思わなかった」とたくさんおかわりをしていました。

当日の様子は、8月4日の高知新聞朝刊に掲載されました。

3 地区本部

スイカの収穫をお手伝い

収穫したスイカを運ぶ児童

7月6日、「やっぱり農！いきいきちゃぐりん塾」を開き、児童28人がスイカの収穫を手伝いました。

奈半利町のスイカ農家森本三好さんの畑で収穫したスイカを運んだ後、栽培についてお勉強。児童は「おいしいスイカはどこを見ますか」「スイカはどうやって育てますか」など、熱心に質問をしていました。

見学後は、お楽しみのおやつタイム！ 収穫したてのスイカを「甘くておいしい」とたくさん食べました。

4 地区本部

公文洋輔さんが青年の主張を発表

「私の目指す農業」と題して発表する公文さん

高知県農協青壮年連盟は7月12日、高知市で第52回JA高知青年大会を開き、約180人が参加。青年の主張と活動実績の発表がありました。

土佐あき本部からは、安田支部の公文洋輔さんが「私の目指す農業」と題して青年の主張を発表。〝かっこいい農業〟を目指すオランダ人に負けないように努力を続け、若い人たちに「農業をしよう」と誘いたいと伝えました。

最優秀賞は青年の主張で春野本部の大庭啓太さん、活動実績で土佐香美本部でした。

5 地区本部

おいしくな～れ♪ 味噌作り

材料を団子状に丸めていく部員

女性部は7月27日、女性大学ときめき学園を開き、部員21人が参加しました。部員の清遠みかさんが講師となり味噌作りに挑戦。部員は、蒸した大豆と米麹をミンチにして、大豆の煮汁と塩を混ぜ、団子状に丸めて樽に詰めていきました。部員は「美味しい味噌ができるように、愛情を込めて作った」「お味噌汁にして食べるのが楽しみ」と笑顔で話していました。

完成した味噌は、部員の顔写真入りのラベルを貼り、12月に部員のもとに届く予定です。

6 穴内出張所

「焼きナスのアイス」世界大会へ

自慢の「焼きナスのアイス」をPRする小松社長

有限会社安芸グループふぁーむは7月6日、東京都で開かれた「にっぽんの宝物 JAPANグランプリ2019」のスイーツ部門でグランプリを受賞。9月にシンガポールで開かれる世界大会に挑みます。

審査員からは「味に深みがあり、インパクトも強い」と好評でした。小松哲也社長は「ナス農家や安芸市民の夢を背負って、世界大会に臨む。焼きナスのアイスが広告塔となって安芸市やナス関連事業の発展を目指したい」と気合十分です。

役立つ！得する！情報 えいのう～

フザリウム立枯病の対策
ナス

令和を迎え、最初の園芸年度がスタートしました。初期の病害虫に気を付けてしっかり樹作りをしていきましょう。

フザリウム立枯病

【特徴】

一部の葉が水分を失って緑色を保ったまま萎れます。上位葉では萎縮、波打ち、黄化の症状が見られます。果実の裂果や、株の基部には表皮のひび割れ、陥没が見られ、表面には赤い小粒（子のう殻）が形成されている場合が多く、症状が進むと枯死します。糸状菌の一種で高温（25～30℃）・高湿度条件で発生しやすくなります。

整枝痕や収穫痕から感染することが多く、感染部位を中心に枝がやや黒ずみ腐敗が広がっていきます。

【防除対策】

・傷口から高湿度条件下で感染することが多いため、ハウス内換気を十分に行い、雨天時に整枝作業などは行わないようにしましょう。

・マルチと接する株元に発生することも多いため、マルチを設置している圃場では株元の風通しが良くなるよう、マルチと株の隙間を10㎝ほど開けましょう。

・胞子の飛散による二次感染を防ぐため、発病枝の切除や、発病株を早期に除去しましょう。

※ハウス外に出した発病株はそのまま放置せず、必ず袋へ入れたりシートで囲う等、病原菌が飛散しないよう適正に処分しましょう。

【薬剤による防除ポイント】

・発病後に薬剤散布しても病気の進展はおさえられないので、薬剤散布は10月上旬までに開始し、栽培初期は主にセイビアーフロアブル20での予防散布をしましょう。

（注：セイビアーフロアブル20には浸透移行性がなく、薬剤散布後に整枝や収穫により新たに生じた傷口には防除効果が期待できないので、定期的な予防散布を心がけましょう。）

※薬剤やその他の対策等、詳しくはハウス野菜栽培管理こよみの資料13の頁をご参照下さい。

安芸営農経済センター
営農指導課 安芸ブロック
濵渦 章裕

摘果・病害虫防除
カンキツ

今年もだんだん収穫期に近づいてきました。まだまだ暑い日が続くので、病害虫や台風対策だけでなく熱中症にも注意して下さい。

【褐色腐敗病】

湿気の多い園地（水田転換園等）で発生しやすく、長雨や暴風雨後に発病すると急激に被害が増大する場合があります。雨滴の跳ね上がりや土壌との接触、冠水などにより収穫期近くの果実に感染し発病するので、枝つりや敷きワラなどを実施して下さい。

また、本病の常発園は、薬剤による予防散布を台風や暴風雨の前後に行いましょう。

【台風対策】

台風が通過する前には密閉状態になった暴風垣の刈り込みや補強を行いましょう。暴風垣の刈り込みは密閉率70％が目安です。

また、高接樹などでは、誘引や結束をするとともに、下垂枝の枝つりを実施しましょう。

防除例

適用病害虫	農薬名	希釈倍率	収穫前日数	使用回数
褐色腐敗病	ランマン フロアブル	2000倍	前日まで	3回以内
	アリエッティ 水和剤	500倍	前日まで	3回以内
	ストロビードライ フロアブル	2000倍	14日前まで	3回以内

褐色腐敗病による
地際部の果実への感染

安芸営農経済センター
営農指導課 中芸ブロック
久保 巴哉

振興センターだより

集落営農の取り組み

川北 恭吾

◆農業・農村の悩み

いま農山村では、農業者の高齢化、農業収益の低下にともなう後継者不足、耕作放棄地や鳥獣害の増加などが問題となっています。

今後数年間は持ちこたえられるとしても、10年後は深刻な事態に陥る可能性があり、このままでは個々の農家の取り組みだけでは集落の農業や農地を維持できない状況になると予想されます。

集落営農は、これらの問題を解決し、地域の農業・農村を支える手段のひとつです。

◆集落営農とは

集落内の住民で集まり、営農や集落の維持発展について話し合い、将来どうしたいかビジョンを作成し、共同で作業を行ったり、機械や施設を共同利用したりしながら、集落ぐるみで集落の農地を守っていくための取り組みです。

地域がまとまって取り組むことで行政的な支援も受けやすくなります。

◆集落営農に取り組む効果

集落営農に取り組んでいる集落では、次のような効果が出ています。

1 機械や施設の共同利用により生産経費が軽減できる
2 農作業受託体制を整えることで、緊急時の作業委託や労力の軽減ができる
3 組織化や農作業の共同化により集落の担い手が育つ
4 耕作放棄地が再生され、農地が守られる
5 能力・体力に応じて、役割を担いながら全員が活動に参加できる
6 農作業の省力化により、園芸品の規模拡大や新品目の導入、直販や農産加工など新たな取り組みができる

◆できることから始める

高知県には現在集落営農組織が224あり、それらの組織による農地面積カバー率が16％程度で年々増加しています。

安芸管内の集落営農組織は10組織で、未だ組織のない町村もあり、多いとはいえません。

県では集落営農組織を支援するために高知県集落営農支援事業を用意していますが、管内での活用は少ない状況です。

この事業では、研修会や先進地視察などについても補助対象としているので、集落営農の組織化がされてない集落では、まずはこれらのソフト事業の活用について検討いただきたいと考えています。

集落営農について、「どのようなものか知りたい」「自分たちの地域で取り組めるかどうか相談したい」「組織運営のステップアップについて相談したい」など、詳しい説明のご希望があれば集落にお伺いしますので、振興センターにお気軽にお声かけください。

まずは、集落協定の会や地区会などで集落の抱える農業・農地の課題や将来像について話し合うことから始めることが大切かと思います。

安芸農業振興センター
農業改良普及課 0887-34-0138
同 室戸支所 0887-22-0268

■安芸農業振興センター 0887-34-0138

皆さんからのご意見、ご感想、つぶやき、川柳、イラストなど、お便りを心待ちにしています！

みんなのひろば

高知園芸連97年のあゆみ、懐かしい思い出がいっぱい残っています。多くの方々の努力があっての今日になっていると思います。頑張ってください。

（芸西支所・67歳）

▼7月号の特集は私自身、知らないことばかりでとても勉強になりました。長年の多くの方の努力を、今の世代がしっかり繋いでいかなければいけません。

私が「なすのたたき」を食べたのが27年前。とっても美味しかったのを覚えています。でも、なぜこの名前が付いたのでしょう？命名したのは誰ですか？

（あき北支所・61歳）

▼「なすのたたき」は、昔農家のお母さんたちが、ナスの美味しい食べ方を考えるなかで生まれました。高知と言えば「カツオのたたき」！ 薬味をたっぷりのせるたたきに見立てて、命名したそうです。

いつも楽しみにしていたパズルを、目を離した隙に夫が全て埋めていました。

（あき北支所・66歳）

▼それはショックですね…！ 楽しみを奪われたようで切ないような気もしますが。ご主人がパズルに目覚めていない事を願うばかりです。

農家食堂のページがいつも楽しみです。紹介されたお店に全部行ってみたい。シイタケのたたきを食べてみたいです。

（赤野出張所・67歳）

▼四万十町は、なかなか行く機会がありませんが、農家食堂を目当てに出掛けてみたいですね～。

県下の農家食堂や道の駅の紹介が具体的で、近くに行ったら是非寄ってみたい。

（北川支所・73歳）

▼広報誌作りを通して、高知県には魅力的なお店や食べ物がたくさん揃っているなあと感心します。ドライブのお供に、ぜひ「こうぐり」を♪

健康で生きていくには、美味しく食べることが大事です。おかみさん市バイキングや「オクラとトマトのさっぱりそうめん」など、毎月食べたくなるような料理紹介ありがとうございます。料理を作って、食べていますよ！

（田野支所・81歳）

▼美味しいものを、美味しく食べられることは、当たり前のようでとても贅沢なことですね。レシピ活用いただいて、とても嬉しいです♪

広報のつぶやき

みなさん、今年の夏を満喫しましたか？ 私はこの夏初めて、東洋町の白浜海岸へ泳ぎに行ってきました！ 前日が雨だったのですが、それでも海はとっても綺麗！ 遠浅なので、のんびり海を楽しめたのも良かったです。

高知では、川でしか泳いだことがなかったので、砂浜の綺麗な海岸にもテンションが上がりました。高知の海は、海水浴客よりサーファーが多い印象。「せっかく高知に住んでいるんだから、サーフィンでもはじめようかな～」と母にぼやいたところ、「あんたには無理、やめちょきっ！」と一喝。大人しく、浮き輪に乗ってチャポチャポしときます～。（竹村）

INFORMATION

お知らせ

JA高知県安芸地区 家の光大会

日　時
令和元年9月28日（土） 13：00～16：30

場　所
JA高知県　あき支所　3階大ホール

内　容
・防災についての講演
　みんなで防災力UP!
　「自分の命は自分で守る。」
・やさしい手芸体験
　「ホイッスル付き防災ブレスレット」作り
・非常食の試食検討中
・家の光図書の販売
※内容は変更になることがあります。

「ホイッスル付き防災ブレスレット」
緊急時にほどけばロープとして使えます

定　員
先着120名様

対　象
JA高知県安芸地区管内在住の方なら
誰でも参加OK！

参加費
無料

お申込問い合わせ
安芸地区本部　企画組合員課
0887−34−1515

税務相談日

9月18日（水）・10月16日（水）

会　場 あき支所3階

時　間 10：00～16：00

問い合わせ 安芸地区本部
企画組合員課　0887−34−1515

ようこそJA教室へ！

安芸地区

「女性大学ときめき学園」新たな仲間づくりへ

管内の女性なら誰でも参加できる「ときめき学園」。“女性部に若い仲間が入ってほしい”という女性部安芸地区の想いから、ものづくりや料理教室などを通して、世代間交流を深めています。参加者は20～70代。これをきっかけに女性部へ加入した方もいます。

今年度も、ハーバリウム教室やエコバック作り、ミニ皿鉢料理作りなど、充実のカリキュラム。秋には、徳島県へ直販所視察や阿波人形浄瑠璃見学など、日帰り旅行も計画しています。今年はどんなワクワクに出合えるかな？

カリキュラム

第１回	6月 8日	ハーバリウム教室
第２回	7月27日	味噌造り
第３回	8月17日	エコバック作り
第４回	9月21日	バランスボール教室
第５回	10月26日	徳島県あいさい広場視察・阿波人形浄瑠璃見学
第６回	11月30日	キャンドル作り
第７回	12月21日	フラワーアレンジメント
第８回	１月11日	ミニ皿鉢料理作り

部員が講師も務め、カラフルでおしゃれなエコバック作り。みんな上手！

イタタ！キツイ！と、にぎやかなバランスボール教室

ハーバリウム作りの講師はフレッシュミズ部員

部員同士で教え合いながら制作

花屋さんを講師に、本格的なアレンジに挑戦

千両や菊を使って、お正月飾りのフラワーアレンジメントが完成

キャンドル作りには子どもたちも夢中♪